**巻頭言　2023年度　5月**

**「子ども同士の大きな力」**

の風に吹かれ、外遊びが気持ちのいい季節になりました。新年度から1か月が過ぎ、どの子も少しずつ新学年に慣れはじめています。新しく入った仲間を気にかけ、大きい組の子どもたちがのゆりやことりのお部屋で遊んでいる姿も多く見かけます。

先日ののゆりぐみでの出来事。友だちが使っている人形が使いたくて、じ～っと見つめていた子に、そらぐみのお姉さんが「かして、って言うんだよ。」と教えてあげていました。その子は小さな声で「かして」と言いましたが、友だちはすでに長く遊んでいたのに貸すことができません。お姉さんは使っている子に「いいよ、って言うんだよ。」と言いますが、その子はさっと背を向け「あーとーで。」といいます。そこで、私がお姉さんに「後でちゃんと貸してあげられたか見ててくれる？」と頼みました。お姉さんは責任重大なお願いに、きっとドキドキしたことでしょう。私もうまく解決できるかなとドキドキしながら物陰から見ていました。その後、お姉さんがかがみこんでその子の目を見ながら話していたかと思うと、その子は待っていた子に人形を渡していました。すごいと思いました！ 大人から「もうずっと遊んでるんだから貸してあげて。」と言われ仕方なく渡してしまえば、それは一見丸く収まるのかもしれません。でもそれでは自分より大きく力のある大人に言われたから行ったことになってしまいます。そうではなく同じ立場の子どもが伝えることが、相手の気持ちを動かす力となるのです。人形を貸してあげられた子は、人に譲ることを学びます。そしてお姉さんは、小さな子の間に入り自分のなすべきことを果たせたことが、大きな自信に繋がったことでしょう。
　こんな風に幼稚園のあちこちで様々な関わりがあり、そのたびに心を動かしている子どもたちなのです。今日もどんな事が待っているのでしょうか。 さて、私も子どもたちと一緒に感動できるよう、子どもの心の探検に出かけましょう。　　　　　　　　　　　園長　髙瀬眞理子